

# 中国人日本語学習者の依頼表現習得状況の考察

## —日中対照の視点から—

盧 万才

### 1. はじめに

#### 1.1 研究の背景

国際化と情報化の進む現在、時代にふさわしい外国語教育のあり方が求められている。この時代の要請に応えるためには、単に外国語を教えることを目指すのではなく、外国語を使い、世界中の人々とコミュニケーションをはかるために必要な能力を身につけさせることを目指した外国語教育が必要とされている。しかし、中国における日本語教育は、果たしてこの時代の要請に応えられる状況にあるのかというと、はっきりとは断言できない。筆者が長年の日本語教育の経験から、中国人の日本語学習者は文法能力より使用能力がかなり足りないことを痛感している。一方、そのような結果になった原因やその解決方法などについての研究も、まだそれほど進んでいるとはいえない。いったい、中国における日本語教育の現状はどうなっているのか、学習者の習得状況はどうなっているのか、教育方法にどんな問題があるのか、このような疑問を確かめるために、本論文は表題のような内容を取り上げたのである。

## 1.2 研究の目的

本論文は、中国人の日本語学習者の日本語依頼表現の習得状況に関する考察を通し、学習者の日本語のコミュニケーション能力を養成するために、日本語教育のあり方に何か問題がないか、問題があるとしたらその原因はなにか、今後の教育方法をどのように改善すればよいかなどについて考察し、今後の研究の土台としたい。

## 1.3 研究の内容

本論文は依頼表現を内容にして日本語学習者の言語使用能力を把握しようとするものである。依頼表現を取り上げたのは、それは社会生活において最もよく使われる表現の一つであり、しかも、どの言語にもその表現形式が豊富に存在しているので対照しやすいからである。特に日本語は敬語が発達しているため、直接依頼表現の丁寧度にかかわり、一般の依頼表現から丁寧な依頼表現まで豊富な表現形式ができています。それは外国人にとって重要な学習項目の一つにもなっている。また、依頼表現は敬語表現とつながる表現であるから、依頼表現の習得状況を通して学習者のコミュニケーション能力全体の習得状況を垣間見ることができよう。

## 1.4 先行研究

これまでに依頼表現に関する研究が数多く見られている。1980年代に日本において井出祥子氏をはじめとする日米敬語行動に関する対照研究プロジェクトがあり、その成果は『日本人とアメリカ人の敬語行動—大学生の場合—』という著書の中にまとめられている。その中には日本語の依頼表現の丁寧度についての内容があり、それによって日本人の大学生が考えている最も改まった場面で使う表現形式から最も気楽な場面で使う表現まで、さまざまな表現形式が見られる。そのほかに、依頼表現の日中対照研究、日タイ対照研究、日韓対照研究など同様の研究が数多く発表されている。しかし、中国において日本語学習者の依頼表現の習得状況に関する調査は、まだ見られていない。

日中依頼表現の対照研究に関するものがあっても、日本語教育の視点から考察したものはまだ少ない。国際化がますます高まっている今日では、コミュニケーション能力の育成という立場から考察する必要性を強く感じている。

## 1.5 研究の方法

本研究はアンケート調査の方法を用いて、中国人の日本語学習者についての依頼表現習得状況に関するデータを集める。そこから得られたデータに基づいて分析し、学習者の習得状況を明らかにする。さらにアンケートの結果を上述した井出祥子(1986)の日本人の大学生に対する調査の結果とを対照し、学習者と日本人の大学生との異同を明らかにする。

## 2. 調査の概要

調査は、2010年3月に中国の黒龍江大学で実施した。その概要は次の通りである。

### 2.1 調査の回答者

調査の回答者は、黒龍江大学東方言語学院日本語学科3年生日本語学習歴2年7カ月の学生58人である。

### 2.2 調査の内容

調査の内容として、井出祥子(1986)の関連内容を参考にして表1のようなアンケート用紙を作成し、学習者に自由回答方式でそれぞれ中国語と日本語で答えてもらった。井出祥子氏の研究は、大学生における日本人とアメリカ人の敬語行動全般にわたって調査して分析したものであり、かなり膨大な研究であった。その中に日本人の大学生に対する依頼表現の丁寧度に関する調査があり、日本人の大学生が考えている最も改まった態度でいる時に使う表現形式から、最も気楽な態度でいる時に使う表現形式まで、数多くの表現形

式が見られた。本調査は、中国人の学習者の依頼表現についての習得状況に関する調査の第一歩である。調査内容の範囲は、最も改まった態度でいる時に使う表現と、もっとも気楽な態度でいる時に使う表現だけに絞ったのである。なお、中国の大学の日本語専攻の学生は、女子の方が圧倒的に多いため(今回の調査では女子対男子の割合は、10:2 であった)、性差による違いは省略した。

表 1. 中国人の日本語学習者に対するアンケート調査の用紙

<p>日本語の依頼表現に関するアンケート調査</p> <p>回答者氏名： _____</p> <p>下記の問題について、自分なりに書いてください。</p> <p>一. 日本語に関する問題</p> <p>1. あなたが他人からペンを借りたいとします。<u>もっとも改まった態度</u>で借りる時、どう言いますか。(例えば、知らない人や偉い先生から借りるときなど)</p> <p>2. あなたが他人からペンを借りたいとします。<u>もっとも気楽な態度</u>で借りる時、どう言いますか。(例えば、親しい同級生や親友から借りる時など)</p> <p>二. 中国語に関する問題</p> <p>1. 你如果用汉语向别人借笔的时候，<u>最礼貌的</u>表达方式应该怎样说？</p> <p>2. 你如果用汉语向别人借笔的时候，<u>最随便的</u>表达方式应该怎样说？</p> <p>みなさんの協力ありがとうございました。</p>
---

### 3. 調査の結果

3.1 学習者が思った、最も改まった態度でいる時に使う日本語の依頼表現  
学習者が思った最も改まった態度でいる時に使う日本語の依頼表現については、19種類の形式が見られた。回答者数の多い順で並べると、表2の通りである<sup>[1]</sup>。

表2. 学習者が思った、最も改まった態度でいる時に使う日本語の依頼表現

順位	依頼表現形式	回答人数	比率
1	ペンを貸していただけませんか	21	36.2%
2	ペンをお貸しいただけませんか	11	19%
3	ペンを貸していただけませんかでしょうか	5	8.6%
4	ペンを貸していただけますか	3	5.2%
5	ペンをお貸しくださいませんか	3	5.2%
6	ペンをお貸しいただけませんかでしょうか	2	3.4%
7	ペンをお借りしてもよろしいでしょうか	1	1.7%
8	もしペンがございましたら、貸して願えますか。すぐお返しいたします。	1	1.7%
9	ペンをお貸しいただいてもよろしいでしょうか	1	1.7%
10	ペンを使わせていただけませんかでしょうか	1	1.7%
11	ペンでもあったら、お貸しになりませんか	1	1.7%
12	ペンをお貸しになっていただけませんか	1	1.7%
13	ペンを拝借させていただきませんか	1	1.7%
14	ペンをお借りいたしたいんですけど	1	1.7%
15	ペンを貸していただきたいんですが	1	1.7%
16	ペンを使ってもよろしいでしょうか	1	1.7%
17	ペンをいただき、いけませんか	1	1.7%
18	ペンを貸してくれませんか	1	1.7%
19	ペンをお貸しになりますか	1	1.7%
	合 計	58	100%

表2で示されている通り、学習者が最も改まった態度でいる時に使う依頼表現形式は、回答人数が最も多いのは21人で、比率36.2%の「ペンを貸していただけませんか」であった。

### 3.2 最も丁寧な依頼表現における中国人の学習者と日本人の大学生との相違

### 3.2.1 日本人が思っている、最も丁寧な依頼表現

中国人の日本語学習者が思っている日本語の最も丁寧な依頼表現は、「ペンを貸していただけませんか」である。この結果を日本人が思っている最も丁寧な依頼表現と比較すれば、両者の違いが分かる。ここで井出祥子(1986)に見られた日本人の大学生が思っている、日本語の最も丁寧な依頼表現を利用して比較したい。そこで次に井出祥子グループの調査概要を簡単に紹介しておく。

井出祥子グループの調査は、主調査と補充調査の二つの調査によってなり、主調査は選択方式で、補充調査は自由回答方式で、それぞれ行われた。その概要は次の通りである。

#### ①主調査

主調査では選択方式で日本人大学生 525 人を対象に、ペンを借りたい時に使える 20 種類の表現リストから最も改まった態度でいる時に使う表現を答えてもらうものであった。その結果は、丁寧度の高い順でベスト 10 を並べると、表 3 のとおりになる<sup>[2]</sup>。

表 3. 選択方式で見た最も改まった態度でいる時に使う依頼表現

順位	依頼表現形式	回答頻度	比率
1	(ペンを)お借りしてもよろしいでしょうか	158	30%
2	(ペンを)貸していただけませんか	137	26%
3	(ペンを)貸していただけますか	75	14.3%
4	(ペンを)お借りできますか	40	7.6%
5	(ペンを)貸してもらえませんか	36	6.9%
6	(ペンを)貸していただきたいんですけど	35	6.7%
7	(ペンを)貸していただけますか	25	4.8%
8	(ペンを)貸してください	8	1.5%
9	(ペンを)貸してくれませんか	7	1.3%
10	ペン	4	0.8%
	合計	525	100%

表3では、順位の1番は「(ペンを) お借りしてもよろしいでしょうか」という形式であり、その出現頻度は158で、30%を占めている。

## ②補充調査

上述した主調査は与えられたリストの表現から回答するものであったため、回答者から与えられた表現から選ぶのでは実際の言語使用とは異なり、自由な回答ができないという不満があった。この不満にこたえるために、自由回答方式で補充調査を行った。この補充調査では、日本人の大学生498人を対象に実施した。その結果、異なり表現では936種類あった。それを丁寧度計算専用のソフトで統計した結果、回答頻度5以上の表現形式が98種類あった。紙幅の関係で、そのうちのベスト10だけを見ることにする。丁寧度の高い順で並べると、表4の通りである。

表4. 自由回答方式で見られた最も改まった態度でいる時に使う依頼表現

順位	依頼表現形式	回答頻度	比率
1	申し訳ありませんがお貸いただけますでしょうか	5	1.6%
2	申し訳ありませんが貸していただけますでしょうか	6	1.9%
3	すみませんがお借りできますでしょうか	12	3.9%
4	すみませんがお借りしてよろしいでしょうか	57	18.4%
5	すみませんがお借りできないでしょうか	8	2.6%
6	申し訳ありませんがお借りしたいのですがよろしいでしょうか	6	1.9%
7	すみませんがお貸いただけますか	11	3.6%
8	申し訳ありませんがお借りできませんか	14	4.5%
9	お借りしてよろしいでしょうか	178	57.6%
10	申し訳ありませんがお借りできますでしょうか	12	3.9%
	合計	309	100%

表4の“順位”は専用ソフトによる計算で得た結果なので、必ずしも“出現頻度”と一致しない。自由回答方式で得られた“出現頻度”こそ、最も改まった態度でいる時に使う依頼表現を決める根拠になるといえよう。表4を見ると、出現頻度の最も多いのは、順位9番の「お借りしてよろしいでしょ

うか」であり、出現頻度 178 で、57.6%の比率であった。

### ③主調査と補充調査のまとめ

主調査と補充調査の結果をまとめれば、日本人の大学生が考えた最も丁寧な依頼表現は、次のようなものになる。

主調査での選択方式の結果、

（ペン）をお借りしてもよろしいでしょうか。

補充調査での自由回答方式の結果、

（ペン）をお借りしてよろしいでしょうか。

この二つの表現をまとめると、日本語の最も丁寧な依頼表現の代表的形式は、「ペンをお借りして（も）よろしいでしょうか」ということになる。

二つの表現形式は、「お借りしても」と「お借りして」のところが違うが、話し手が聞き手に自分の行為の妥当性について確認するという点では、両者が共通の特徴を持っている。丁寧度の視点から見て、それほど変わらないのではないかと思う。

### 3.2.2 最も改まった態度でいる時に使う、依頼表現における学習者と日本人との違い

日本人の大学生が思っている、最も改まった態度でいる時に使う依頼表現：

「ペンをお借りして（も）よろしいでしょうか」

中国人の学習者が思っている、最も改まった態度でいる時に使う依頼表現：

「ペンを貸していただけませんか」

前掲の表 2 で分かるように、中国人が思っている最も丁寧な依頼表現は、日本人が選択方式(表 3)で選んだ丁寧表現の順位 2 の形式に当たる。注目すべきなのは、日本人大学生が思っている最も丁寧な依頼表現と一致した回答者は一人(表 2 の順位 7)しかいなかったという点である。

一方、日本人の大学生が選択方式(表 3)で選んだ丁寧表現の順位 2 の形式「ペンを貸していただけませんか」は、自由回答方式(表 4)では「申し訳ありませんが貸していただけませんかでしょうか」の形で現れ、順位 2 という高



い丁寧度になっているが、出現頻度は6という低い数字になっている。このことから見て、「ペンを貸していただけませんか」という表現形式は、一般的に使われていないように思われる。

### 3.3 学習者が思った、最も気楽な態度でいる時に使う日本語の依頼表現

学習者が思った、最も気楽な態度でいる時に使う日本語の依頼表現については、15種類の形式が見られた。回答者数の多い順で並べると、表5の通りである<sup>3)</sup>。

表5. 学習者が思った最も気楽な態度でいる時に使う日本語の依頼表現

順位	依頼表現形式	回答人数	比率
1	ペンを貸して。	13	22%
2	ペンを貸してくれ。	11	19%
3	ペンを貸してくれない？	6	10%
4	ペンを借りてもいい？	5	9%
5	ペンお願い。	5	9%
6	ペンを貸してくれる？	3	5%
7	ペンを貸してね。	3	5%
8	ペンちょっといい？	3	5%
9	ペンを一つ。	2	3%
10	ペンを借りたい。いいですか。	2	3%
11	ペンちょっとね。	1	2%
12	ペンくれ。	1	2%
13	私はちょっと使用することがいいですか。(原文通り)	1	2%
14	ペンを借りるか。(原文通り)	1	2%
15	ペンを使ってもらおう。(原文通り)	1	2%
	合計	58	100%

表5で示されている通り、学習者が思った最も気楽な態度でいる時に使う

依頼表現形式は、回答人数が最も多いのは 13 人で、比率 22%の「ペンを貸して」であった。

### 3.4 最も気楽な態度でいる時に使う、依頼表現における学習者と日本人との相違

#### 3.4.1 日本人の大学生が思っている、最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現

前述の井出祥子(1986)に見られた主調査と補充調査から、日本人の大学生が思っている、最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現が分かる。次のような結果である。

##### ①主調査

主調査で選択方式で見られた、最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現について、回答頻度の多い順でベスト 10 を並べると、表 6 の通りになる<sup>[4]</sup>。

表 6. 選択方式で見た最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現

順位	依頼表現形式	回答頻度	比率
1	(ペンを) 貸して	155	30%
2	(ペンを) いい	125	24%
3	(ペンを) ある	87	17%
4	(ペンを) ペン	49	9%
5	(ペンを) 貸してくれる	36	7%
6	(ペンを) 借りるよ	27	5%
7	(ペンを) 借りていい	19	3.6%
8	(ペンを) 貸してよ	18	3%
9	(ペンを) 使っている	7	1%
10	(ペンを) 貸していただきたいんですけど	2	0.4%
	合 計	525	100%

表 6 では、順位の 1 番は「(ペンを) 貸して」という形式であり、その出現

頻度は155で、30%を占めている。

## ②補充調査

補充調査では、回答頻度5以上の表現形式が98種類あった。そのうちの、最も丁寧度の低い順からワースト10を並べると、表7の通りである<sup>[5]</sup>。

表7. 自由回答方式で見られた最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現

順位	依頼表現形式	回答頻度	比率
1	取って	13	0.7%
2	ねえ	10	0.6%
3	ねえ貸してくれる	8	0.4%
4	借りるよ	140	7.8%
5	持ってる	18	1%
6	貸せ	23	1.3%
7	貸してくれ	51	2.8%
8	ねえ貸して	31	1.7%
9	貸して	1412	78.7%
10	ある	89	5%
	合計	1795	100%

表7を見ると、出現頻度の最も多いのは、順位9番の「貸して」であり、出現頻度1412で、ワースト10の中で78.7%の比率を占めている。

## ③主調査と補充調査のまとめ

主調査と補充調査の結果をまとめれば、日本人の大学生が考えた、最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現は、次のようになる。

主調査での選択方式の結果：(ペンを) 貸して。

補充調査での自由回答方式の結果：(ペンを) 貸して

主調査と補充調査の結果は見事に一致している。つまり、日本語の最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現の代表的形式は、「(ペンを) 貸して」であるということになる。

### 3.4.2 最も気楽な態度でいる時に使う、依頼表現における学習者と日本人

### との比較

日本人の大学生が思っている、最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現は、  
「(ペンを) 貸して」

中国人学習者が思っている、最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現は、  
「ペンを貸して」

つまり、最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現において、中国人の日本語学習者と日本人の大学生と同じ結果になっている。

### 3.5 学習者が最も改まった態度でいる時に使う中国語の依頼表現

アンケートで見た中国語の依頼表現については、異なり表現は 42 種類が見られた。それを機能の側面から分類すると、4つのタイプにまとめられる。4つのタイプを回答人数の多い順で示すと、表8の通りになる。

表8. 学習者が見た、最も改まった態度でいる時に使う中国語の依頼表現

順位	依頼表現のタイプ	回答人数	比率
1	“能～借我～吗？”タイプ—— 例：能把笔借我用一下吗？（ペンを貸していただけますか）	25	43.1%
2	“能～借用～吗？”タイプ—— 例：能借用一下您的笔吗？（ペンをお借りできますか）	16	27.6%
3	“可以～借我～吗？”タイプ—— 例：可以把笔借我用一下吗？（ペンを貸していただけますか）	12	21%
4	“能不能～借我～？”タイプ—— 例：能不能把您的笔借我用一下？（ペンを貸していただけませんか）	5	8.6%
	合計	58	100%

表8で示されている通り、学習者が思った、最も改まった態度でいる時に使う中国語の依頼表現形式は、回答人数が最も多いのは25人で、比率43.1%

の“能～借我～吗？”タイプであった。

### 3.6 学習者が、最も気楽な態度でいる時に使う中国語の依頼表現

学習者が最も気楽な態度でいる時に使う中国語の依頼表現については、異なり表現は43種類が見られた。それを機能の側面から分類すると、9つのタイプにまとめられる。9つのタイプを回答人数の多い順で示すと、表9の通りになる。

表9. 学習者が見た、最も気楽な態度でいる時に使う中国語の依頼表現

順位	依頼表現のタイプ	回答人数	比率
1	笔借我一下！（ちょっとペンを貸して）	17	29.3%
2	笔借我！（ペンを貸して）	10	17.2%
3	借我支笔呗！（ペンを一本貸してくれよ）	10	17.2%
4	借我一支笔！（ペンを一本貸して）	8	14%
5	笔我用一下！（ちょっとペンを使うよ）	4	7%
6	笔！（ペン）	3	5.1%
7	笔给我用用！（ちょっとペンを使わせて）	3	5.1%
8	能借用一下笔吗？（ちょっとペンを借りてもいいですか）	3	5.1%
	合計	58	100%

表9で示されている通り、学習者が思った最も気楽な態度でいる時に使う中国語の依頼表現形式は、回答人数が最も多いのは17人で、比率29.3%の“笔借我一下！”であった。

## 4. 表現機能からの対照分析

### 4.1 最も丁寧な依頼表現の場合

#### 4.1.1 学習者が思っている、最も丁寧な日本語の依頼表現は日本人のとう違うか

前述の通り、日本人大学生が思っている最も改まった態度でいる時に使う

依頼表現は「ペンをお借りして（も）よろしいでしょうか」であり、中国人学習者が思っている最も改まった態度でいる時に使う依頼表現は「ペンを貸していただけませんか」である。両者はどこが違うだろうか、それを確かめるために表 10 の通り、「表現形式」、「表現方法」、「確認の行為」、「確認の内容」、「丁寧さ」という 5 つの側面から、依頼表現の機能における学習者と日本人との異同を見よう。

表 10. 最も丁寧な依頼表現形式の機能における学習者と日本人との異同

順位	依頼表現のタイプ	回答人数	比率
1	“能～借我～吗？”タイプ—— 例：能把笔借我用一下吗？（ペンを貸していただけますか）	25	43.1 %
2	“能～借用～吗？”タイプ—— 例：能借用一下您的笔吗？（ペンをお借りできますか）	16	27.6 %
3	“可以～借我～吗？”タイプ—— 例：可以把笔借我用一下吗？（ペンを貸していただけますか）	12	21%
4	“能不能～借我～？”タイプ—— 例：能不能把您的笔借我用一下？（ペンを貸していただけませんか）	5	8.6%
	合 計	58	100%

表 10 の内容をまとめると、次のような結果が見られる。

日本人：自分の行為の妥当性を丁寧に確認する。

学習者：相手が応じてくれる行為の可能性を婉曲に確認する。

「確認する」のところだけが一致していて、それ以外の要素はすべて異なり、中国人の日本語学習者と日本人の大学生との認識がずれていることが分かる。

#### 4.1.2 学習者と日本人との認識がずれている原因

学習者と日本人との認識がずれている原因は、中国語からの影響にある考えられる。中国語からの影響を確認するために、学習者が思っている日本語の最も丁寧な依頼表現の機能と、学習者が思っている中国語の最も丁寧な依

頼表現の機能とを対照してみたい。対照する項目は前述の通り、「表現形式」、「表現方法」、「確認の行為」、「確認の内容」、「丁寧さ」の5つの側面とする。

まずは、学習者が思っている丁寧な中国語の依頼表現の機能を見る必要がある。中国語の最も丁寧な依頼表現は前述の表8に示されている通り、順位1の“能～借我～吗？”のタイプであり、その代表例は“能把笔借我用一下吗？”である。この順位1のタイプは他の3つのタイプとは機能の面でどのように違うのか、について見ておきたい。表11は5つの側面から中国語の依頼表現の4つのタイプを比べるものである。

表 11. 中国語依頼表現の4つのタイプの機能比較

		順位1のタイプ	順位2のタイプ	順位3のタイプ	順位4のタイプ
1	表現形式	能把笔借我用一下吗？	能借用一下您的笔吗？	可以把笔借我用一下吗？	能不能把您的笔借我用一下？
2	表現方法	～吗？—— 疑問形による確認	～吗？—— 疑問形による確認	～吗？—— 疑問形による確認	～用一下？—— 疑問形による確認
3	確認の行為	～借我～ (貸してくれる) 相手が応じてくれる行為	～借用～ ( <u>借りる</u> ) <u>自分の行為</u>	～借我～ (貸してくれる) 相手が応じてくれる行為	～借我～ (貸してくれる) 相手が応じてくれる行為
4	確認の内容	能～吗——可能性	能～吗——可能性	可以～吗——可能性	能不能～——可能性
5	丁寧さ	能～吗——丁寧	能～吗——丁寧	可以～吗——丁寧	能～吗——丁寧

表11を見ると、下線を引いた順位2のタイプの「確認の行為」のところだけが異なり、ほかの要素はすべて同じである。「確認の行為」とは、その行為は聞き手の行為か、あるいは話し手の行為かのことであり、中国語の場合、そ

これは丁寧度を決めるための決定的な要素ではないように感じられる。日本語の場合、“借我（貸してくれる）”より“借用（借りる）”の方が丁寧とされているが、中国語ではそのような違いがないようである。表 11 を通して中国語の依頼表現の 4 つのタイプは形式が違っても丁寧度に差がないことが見られた。この点は、日本語とだいぶ様相が違うのである。

次に、学習者が思っている最も丁寧な日本語の依頼表現と、学習者が思っている最も丁寧な中国語の依頼表現とを対照してみる。表 12 はその対照をまとめたものである。

表 12. 学習者が思っている日中依頼表現機能構造の対照

		学習者が思った日本語の丁寧な依頼表現	学習者が思った中国語の丁寧な依頼表現
1	表現形式	ペンを貸していただけませんか	能把笔借我用一下吗？
2	表現方法	「～か」—— 疑問形による確認	～吗？—— 疑問形による確認
3	確認の行為	「貸していただける」—— 相手が応じてくれる行為	～借我～—— 相手が応じてくれる行為
4	確認の内容	「いただけませんか」—— 可能性	能～吗—— 可能性
	丁寧さ	「ませんか」—— 丁寧に思っている	能～吗—— 丁寧

表 12 を見て分かるように、学習者が思っている日本語の丁寧な依頼表現の意味機能と中国語の丁寧な依頼表現の意味機能とでは、構造的にぴったり一致している。このことから、学習者の日本語には中国語からの影響があることがいえよう。つまり、学習者が中国語の依頼表現の機能構造をそのまま日本語に移したと考えられる。したがって、学習者が思っている日本語の丁寧な依頼表現に、中国語からの干渉があるといえる。



## 4.2 最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現の場合

### 4.2.1 学習者と日本人との比較

前の3.4.2で述べたように、最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現では、中国人の日本語学習者と日本人大学生とでうまく一致して、両方とも「(ペンを)貸して」という結果になっている。

### 4.2.2 学習者と日本人と同じ結果になった原因

最も気楽な態度でいる時に使う依頼表現において学習者と日本人大学生と同じ結果になったのは、偶然とはいいいにくい。それは日本語と中国語との意味構造が非常に似ているからである。その対応は次のようになる。

笔(ペンを)借我(貸して)一下(ちょっと)!

この対応を見ると、中国語の方は“一下”という要素があつて、しかもそれを日本語の「ちょっと」に訳している。これでは中国語の方は日本語と違うのではないかと思われる。しかし、この中国語の“一下”は日本語の「ちょっと」に訳しても、実は日本語と完全に同じではない。たとえば、日本語の「ペンを貸して」という発話の意味は、「ペンを貸してもらって、使ったらすぐ返す」ということになる。これと同じ意味の中国語にするには、“笔借我一下!”と言わなければならない。つまり、この“一下”は、「使ったらすぐ返す」という意味合いを持つ。もし“笔借我!”とだけ言ったら、機嫌が悪いように聞こえたり、「すぐ返す」という意味がはっきりしなくなったりすることになる。つまり、学習者は“借我一下”を固定したフレーズとして、“借我一下”＝「貸して」というふうを考えているのである。

## 5. 文化的要素からの分析

学習者と日本人との認識のずれには、前述の機能構造からの干渉が見られるばかりでなく、文化的な要素からの干渉も考えられる。前掲表10の対照で述べたように、日本人大学生が考えている丁寧な日本語の依頼表現と中国人日本語学習者が考えている丁寧な日本語の依頼表現のそれぞれの特徴は次の

通りである。

日本人——自分の行為の妥当性を丁寧に確認する

学習者——相手が応じてくれる行為の可能性を婉曲に確認する

両者を比較して見ると、日本語でも中国語でも丁寧に依頼をする時に相手に依頼の行為について確認するという方法を用いることが分かる。この点では両言語の文化の共通性を反映しているといえよう。

一方、確認の内容においては、それぞれ違う特徴が見られる。

まず、確認の内容としての行為を見ると、日本人大学生は話し手自身の「依頼行為の妥当性」にウエートをおくのに対し、中国人日本語学習者は聞き手が話し手の依頼に「応じる可能性」に関心を持つという違いが見られる。この違いは、それぞれ日本人の常に周囲を配慮しながら行動するという思いやりの意識と、中国人の常に相手の反応を見て行動するという性格を反映している。

次に確認の方法を見ると、日本人大学生は「～でしょうか」という推量疑問形の表現が丁寧だと思っているのに対し、中国人学習者は「ませんか」という否定疑問形が丁寧だと思っているということになる。ここにも日中言語の文化的違いが窺われる。日本語の推量形は話し手の主観的推測を表わすものであるから、話し手の意志を聞き手に押し付けるようなことが避けられる。これも日本人の相手に対する思いやりの現われといえよう。それに対して、「ませんか」という表現は、聞き手に依頼の内容が実現できるかどうかという可能性を直接確認することになるので、聞き手がその可能性について答えなければならない立場に強いられ、心理的に負担を感じるのであろう。このことから、学習者は人の思いやりに対する認識がまだ足りないことが分かる。もちろん、「ませんか」は「ますか」より婉曲的であるが、思いやりの観点から見れば、「ませんでしょうか」の方が日本的ではないと思われる。つまり、日本人大学生の確認の仕方は学習者の確認の仕方より丁寧度が一段高いということになる。その差を出した原因は、中国人学習者の思いやりの意識が足りないことと、日本語教育における文化的背景の導入が不十分という二

つの側面にあると考えられる。

日本人の思いやりの意識は日本社会の隅々に浸透している。電車に乗るとき、一列に並んで乗る。込み合う電車の中で皆静かにいる。道を歩いていて擦れ違う際、お互い道を譲る。このような行動様式の原点は思いやりという日本人の心遣いにあるといえる。このような心遣いは日本語に反映し、日本語の特有な表現をなしたのであろう。したがって、このような文化的要素は日本語学習者にとって欠いてはならないものと思われる。

## 6. 中国における日本語教育現状からの分析

前述の中国人学習者に対する依頼表現習得状況の調査では、日本人大学生が最も改まった態度でいる時に使う日本語の依頼表現の「ペンをお借りしてもよろしいでしょうか」を答えたのは一人しかいなかった。そこには、母国語の干渉や文化的な影響が見られることは前述の通りであるが、日本語教育にも大きな原因があることを見逃してはいけない。

日本語教育の原因としては、中国において、コミュニケーション能力を重視する日本語教育がまだ一般的に普及されていないことが考えられる。コミュニケーション能力は文法能力、社会言語能力、談話能力、ストラテジー能力といった四つの領域の知識とスキルを含む。依頼表現は人に何かをしてもらうように頼む表現であるから、さまざまな表現形式がある。それを適切に使い分けるのは決して容易なことではない。ちゃんと使いこなせるには、文法能力だけでは足りず、話し手と聞き手との関係や、依頼の要件の内容、依頼の場所などさまざまな要素を判断し、それに応じる能力が必要になる。

しかし、中国の大学の日本語教育は依然として文法教育一辺倒の状況が続いている。日本語学科のカリキュラムには「精読」（日本語の文章を細かく読むこと）という科目があり、週に8時間（日本の大学の4コマに当たる）、一年生から4年生の前期までずっと続けられる。そうすると、学習者は文法の知識は十分覚えられるが、「ペンをお借りしてもよろしいでしょうか」という

ような文法を生かした臨機応変の能力が身につけられない。筆者が長年の日本語教育現場の中で、「日本語は読めるが使えない」という嘆きを学習者からよく聞かされた。また、学習者が日本語能力試験を受ける際、文法の問題に自信があるが、応用問題には自信がないという声もよく耳にした。

もちろん、日本語教育においては文法能力が重要な教育内容である。それと同時に、さまざまな場面において、効果的、かつ適切に対処できるコミュニケーション能力も語学教育の重要な内容になる。今後どういうふうにコミュニケーション能力の養成をカリキュラムに取り組むかは大きな課題になっているといえよう。

## 7. おわりに

以上の考察を通して、本論文は次のようにまとめることができよう。

(1) 中国人日本語学習者に対する日本語の依頼表現習得状況についてのアンケート調査を通して、最も改まった態度で使う依頼表現において、中国人学習者と日本人大学生との認識に相違があることが確認できた。

(2) 中国人学習者と日本人大学生との相違が生じる原因は、表現形式の機能構造、文化的要素の影響、日本語教育の現状といった3つの側面から分析できる。表現の機能構造において、学習者が考えた日本語の丁寧な依頼表現と中国語の丁寧な依頼表現とぴったり一致しているので、学習者の日本語には中国語からの干渉があることがいえる。文化的な要素については、日本人の常に周囲を配慮しながら行動する意識と、中国人の常に相手の反応を見て行動する性格がそれぞれの言語表現に影響を与えていると考えられる。日本語教育の現状において、中国における日本語教育は文法教育一辺倒的な傾向が強いことと、コミュニケーション能力を重視した日本語教育はまだ普及していないことが指摘できる。

(3) 本考察の目的は中国における日本語教育をいかにして改善すればよいかにあることから、この目的を達成するためには、まず中国における日本

語教育現状の全体像を明らかにしなければならない。本考察は依頼表現を内容としたが、今後本考察を土台にさらに考察の範囲を広げ、中国における日本語教育の全貌を明らかにし、国際化と情報化の進む時代にふさわしい日本語教育のあり方を探っていきたい。

## 参考文献

1. 青木直子・尾崎明人・土岐哲（2001）『日本語教育学を学ぶ人のために』世界思想社
2. 井出祥子・荻野綱男・川崎晶子・生田少子（1986）『日本人とアメリカ人の敬語行動——大学生の場合——』南雲堂
3. 王 志英（2005）『命令・依頼の表現—日本語・中国語の対照研究』勉誠出版
4. 蒲谷 宏・川口 義一・坂本 恵（1993）「依頼表現方略の分析と記述：待遇表現教育への応用に向けて」『早稲田大学日本語研究教育センター紀要』5, 52-69, 早稲田大学
5. 木村英樹（1987）「依頼表現の日中対照」『日本語学』6-10 明治書院
6. 国分建志・趙剛（1996）「依頼会話における日本人と中国人の意識の相違について」『日語学術文集』南京出版社
7. 高殿良博（2000）「日本語とインドネシア語における依頼表現の比較」『亜細亜大学国際関係紀要』第9巻第1、2合併号、亜細亜大学
8. 趙剛（1996）「依頼の会話のストラテジーについて」『日語学術文集』南京出版社
9. 張拓秀（1993）「依頼表現の日中対照研究」『講座日本語教育』28 分冊、早稲田大学日本語教育センター
10. 浜田麻里（1995）「依頼表現の対照研究——中国語における命令依頼の方略——」『日本語学』10月号明治書院
11. 松田勇一・金英姫・李周殷・朴銀南（2008）「韓国人日本語学習者の依頼

表現：依頼行為を話し手と聞き手が共に行う場合」『茨城大学留学生センター紀要』Vol.6、茨城大学

12. 林淑珠（1982）「日本語と中国語の命令・依頼表現の比較——丁寧度の観点から——」『国語学研究』22 東北大学文学部国語学研究室
13. 盧万才（1999）「中国語における表現形式と丁寧度の相関関係——命令・依頼表現に関して——」『麗澤大学大学院言語教育研究科年報』創刊号

## [注]

- 
- [1] 表2の回答例には、「すみませんが」「失礼ですが」「申し訳ありませんが」などの前置きがほとんどついていたが、本稿ではそれを省略にして、今後の論文に取り入れることにしている。
  - [2] 井出祥子(1986)P.80表5より。
  - [3] 表5の回答例には、「ちょっと」「おい」「ねえ」などの前置きが一部分の回答ついていたが、本稿ではそれを省略にし、今後の考察に取り入れることにしている。
  - [4] 井出祥子(1986)P.81表7より。
  - [5] 井出祥子(1986)P.187表43より。